

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100750		
法人名	社会福祉法人釧路啓生会		
事業所名	グループホーム きたその (ふきのとう)		
所在地	釧路市北園1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春、夏、秋は中庭に花や野菜を植え、外気浴・散歩・食事・コーヒータムを楽しめるのどかな自然環境の中で生活し、冬期は下肢筋力低下の為、屋内で体操・歩行運動を行なっている。CWはもとより、ご入居者同士が支えあう状態ができており、穏やかな生活が営まれている。また、事故防止、感染症予防についてはマニュアルを整備し、シュミレーションを行い、全職員一丸となって取り組んでいる。誠実に笑顔をやさず、入居者本意のケアの実践に取り組んでいる。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100750&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100750&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<地域とのつながり>**  
母体社会福祉法人が中核となって、地域のボランティアの積極的な受け入れや町内会野外レクリエーション、盆踊り大会の参加や小学生の訪問等利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう日常的に交流が図られている。また、広報誌「みんないきいき」を定期的に発行し、家族や地域の人達に認知症について理解を得るために「知って得する豆知識」を連載し、広報に取り組んでいる。

**<職員を育てる取り組み>**  
職員の離職率は低く、安定している。また、人事考課制度の導入で新人研修や各段階に応じた人材育成の為に内部研修を充実させケアサービスの質の向上に取り組んでいる。外部の研修参加も積極的に行われ、交換研修やスタッフ研修等を通じて地域の同業者との交流の機会も確保されている。

.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>理念に基づく運営</b>						
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をホーム内数箇所に掲げ、職員一同が理念に沿ったケアを意識して実践につなげている。	職員間で意見を出し合い、事業所独自の理念をつくりあげ、朝礼時やユニット会議を通じて話し合い、その実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加し、地域の一人として日常的に交流できるように努めている。	地域のボランティアの積極的な受け入れや町内会野外レクリエーション、盆踊り大会の参加や小学生の訪問等利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう日常的に交流が図られている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に発行している、ホーム便りにてホームの人の生活の様子を写真にて感じて頂いたり、認知症の豆知識という名目で、認知症の方の支援の方法等を伝えている。			
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員の皆様にご入居者の生活状況を見て頂くとともに、サービスの状況報告によりご意見を頂き、サービスの向上に活かしている。会議では、ご入居者を招きご意見を頂いている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、サービスの提供状況や各委員からの忌憚のない意見等具体的に話し合っている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括ケア会議に参加し、情報を得てサービスの質の向上に努めている。運営推進会議録、ホーム便りを市役所担当者に提出しホームの状況を報告し、都度アドバイスを受けている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加したり、毎月施設で行われる、委員会の報告等を通して、職員一同理解している。又、日常のケアでも身体拘束に触れる様なケアは行っていない。玄関の施錠に関しては、外に出てしまうと湿原が隣接している為、ご家族の許可を得て施錠している。	身体拘束廃止や虐待防止委員会で管理者及び職員の理解を深め、全ての職員に周知している。また、マニュアルを整備し、研修会を実施している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し学んでいる。防止に関しては、日常ケア、会議等で話し合い周知徹底している。身体観察を細めに行ったり、ふさわしくない言葉等があった際は、職員同士で注意しあう等、徹底し防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修を受けて理解に努めている。将来、必要になる方については、市役所に相談する等、活用出来る様に支援していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書にて十分な説明を行い、入居者、契約者からの疑問、不安な点に対しては十分に説明し、理解・同意を得ている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、夏に家族懇談会を開催し、ご家族の意見を聞く機会を設けている。又、家族とは常にコンタクトを取りながら、何でも話して頂ける様な雰囲気作りにも努めている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように玄関入り口付近に受付箱を設置している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度、会議を開催したり、連絡ノート、日々の引継ぎ等で意見・発言の機会を設け、ケアに反映できるような雰囲気作りにも努めている。	人事考課制度を導入して、年3回個別面談を実施している。また、日々の業務や連絡ノートを通じて、職員の意見や要望、提案を聞くよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて上司との面接実施(一部職員)、毎月の会議、人材育成研修等を実施している。また法人の昇格基準を基に、正職員・準職員に登用されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当職員は、採用となると新人研修・3ヶ月研修・6ヶ月研修・1年研修と段階を踏んだ研修にて育成している。また経験・能力に応じた研修も組んでいる。また働きながらその都度指導をしたり、施設内外の研修も定期的に行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会があり、その中で、交換研修・スタッフ研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意向や要望を傾聴し、その人の思いを大切にしながら信頼関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや本人の思いが話しやすい環境づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としている事を聞き取り対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事仕事の好きなご入居者には、布巾を縫ってもらったり、食事の後始末、掃き掃除等を一緒に行い支えあう関係を作っている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には来訪時、又は電話にて特変や近況を伝え、協力や理解が得られている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしていた写真等を居室に飾ったり、会話の中で馴染みのある環境で過ごせる雰囲気作りに努めている。	馴染みの場所へのドライブや町内会の花火大会や盆踊り参加、種まきや畑の手入れ等支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士がコミュニケーションを取れる様に配慮し、孤立しない様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も自由に訪問して頂ける関係作りに努め、要望等にも随時相談を受け入れる体制をとっている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に合わせて、煙草を吸いたい時に吸ったり、就寝前に希望にてお酒を嗜む方がいたり、その時その時に本人本位の決定が出来る様対応している。	センター方式を活用し、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、嗜好を把握し、安全を配慮しながら本人本位に検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者との会話の中や、家族さんからの聞き取り等から、暮らしの把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に入居者の状況確認し、介護日誌・連絡ノートを用い、その時々でも介護員は情報交換しながら、一人ひとりの生活のあり方や有する力等の現状把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームの気付きや日々の記録、フロア会議で情報交換・カンファレンスを行いながら作成している。又、作成に当たり家族さんの意見や同意を得ている。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用し、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の日々の状態(生活の様子・食事分量・排泄・体調の変化)を具体的に記録し、すぐに目の届く所にあり、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養ホームでの行事の参加や、理容室等を利用している。又、体調不良時等で緊急の病院受診時には、特養所有の車両・運転手等の支援も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(盆踊り・小学校の学芸会・運動会・町内会の納会)等に積極的に参加している。又、近隣を散歩し、個々の家に咲いている花等を觀賞したり、暮らしを楽しむことが出来ている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の希望により優心HPの訪問看護を受けるご入居者もいる。又、特養看護師が巡回し、日々の健康状態を相談しながら管理している。殆どのご入居者は在宅時からのかかりつけ医を受診している。	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医となっている。また、看護師との連携で適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、隣接の特養看護師が状態観察を行っている。ご入居者とも顔見知りとなっており、気軽に健康相談が出来る。訪問看護師も定期的に来訪し、現状を報告して指示を受けている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者が入院した際は、問い合わせや協力依頼があった場合、速やかに対応できる体制がある。入院時には安心して入院出来る様、詳細な情報提供を行っている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの看取り介護について説明し、意向を確認し、書面は個人ファイルに保管し、全員で共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、医師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を定期的に受けている。急変時や事故発生時のマニュアルをいつでも見られる所に置き、全職員が熟知している。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している特養と連携をとり、災害・地震・行方不明時には救援に来る体制が整っている。近隣の住民にも町内会を通してお願いしている。非常召集連絡網を整備している。毎月のGH会議時にも防火避難訓練のシミュレーションを行い、的確な対応がとれるようにしている。	スプリンクラーの設置が完了している。また、年2回避難訓練と毎月防災訓練を実施し、緊急時に速やかに対応出来るように努めている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を尊重した言葉かけや対応に全職員が心がけて実践している。	身体拘束廃止委員会等で研修会を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者個々の理解力に合わせた説明を行い、自己決定をして頂いている。また日々の会話の中から思いを汲み取り、その方が安心して暮らせる様支援している			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者のペースに合わせ、その方の思いや希望を優先して対応している。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はご自分で選び着用しているご入居者もいる。髪は特養の床屋を利用している。ご家族と外出し、美容室でカット・パーマをする方もいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホーム内で収穫した野菜を調理する等、楽しみを持って行っている。身体状況に合わせて調理を工夫しながら提供している。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒に野菜を収穫して、調理を楽しんだり、食事や後片付け等している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・夕は隣接の厨房より提供され、昼は好みに合わせ、又身体状況を考慮しながら行っている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけ、見守り、援助を行い清潔を保持している。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重し、排泄表を参考にしながら声がけ誘導を行っている。	排泄表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前にヨーグルトを飲んでいる。水分表を参考にし、不足の方には細めに水分を摂ってもらっている。運動も行っているが、下剤を服用する事もある。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定し身体状況を確認している。各種入浴介助機具を揃え、安心して入浴できるよう行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて週3回を目安に入浴を楽しめるように支援している。また、好みに合わせて温度調節を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況の低下が見られる方には、AM・PMと休息をとってもらい、状況に合わせてソファで横になる時もある。又毛布をかける等配慮している。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニットに処方箋を置いて、いつでも見られるようにしている。また、症状の変化時には、記録を基に情報の共有を図っている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	併設の特養の催事への参加や散歩を積極的に行っている。食事の下準備・片付け・掃除等を働きかけ役割を持ち張り合いのある生活が送れるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外気浴、散歩を行っている。その他、ドライブ・買い物・自宅外泊を希望に沿って行っている。ドライブは入居者からの評判が良いため、回数を増やしていきたい。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や外気浴、買い物やドライブ、町内の盆踊り等戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、チューリップや花見見物等普段行けない場所の訪問も行っている。	普段行けない場所への訪問の支援が行われているが、職員間ではさらに外出の回数を増やすよう検討しているので、系列の法人への訪問回数を増やす等実践されることを期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に応じてお金を所持して頂いたり、預かっていたりしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者宛の手紙が届いた際は、すぐに手渡している。返事を書くご入居者もいる。電話の要望があった際は、意向に添い電話をかけている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔を保ちながら整理整頓等に配慮し、リビング等に、季節感が感じられる飾り付け等をし、居心地よい雰囲気づくりを工夫している。	敷地は広く、平屋建ての2ユニットで避難経路の確保・安全対策がとられています。共用空間は広く、ゆったりとして採光が採り入れられ明るく清潔感が漂い、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、食事の席等が決まっており、入居者自身も自然とその席に座り、気の合う入居者同士、会話が弾んでいる。トラブルが生じた際は、その都度、座席替えを行ったり配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物を持ち込み、自室でゆったりと過ごされている。本人・家族と相談し、本人の好むものを居室に飾ったり、居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や家族の写真、手作りの作品等が飾られ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの出来る事を把握し、その力を意向に添いながら発揮できるよう支援している。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100750		
法人名	社会福祉法人釧路啓生会		
事業所名	グループホーム きたその (こごみ)		
所在地	釧路市北園1丁目1番20号		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する特養から食事や洗濯等の協力が得られ、グループホームのご入居者との関わりの時間に当てる事が出来る。その時間を有意義に使い、身体状況や好みに合わせた余暇活動への取り組み。又、特養コミプレへ参加し気分転換を行う。更に希望を取り入れた年間行事等を充実なものにしています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100750&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100750&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が意見を出し合い作った。ホームの理念は身近なところに掲げ支援に繋げている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ご入居者は地域の特別会員にして頂き、地域行事や近隣の小学校行事の誘いを頂き参加している。又、特養の催しの際や月1回のふれあいランチではボランティアとの交流を行っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月毎に広報誌を発行しホームの様子を紹介し、内容の一部に認知症に関する豆知識のコーナーを作っている。又、運営推進委員会の会議録を開示している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎年6回開催し、運営状況を報告しご意見を頂き運営に反映させている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月毎の運営推進会議に包括支援センターの方に参加して頂き、運営のアドバイスを頂いている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内で研修会を持ち拘束についての理解を深め、全職員に周知徹底している。玄関の施錠については立地条件(湿原)による事故から守るためであり家族さんからも承諾を得ている。尚、鍵はご入居者に開けられるものであり、時間による施錠外しを検討している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	隣接する特養と合同の委員会を設けており毎月のユニット会議の場でどのような事が虐待となるか話し合いを行っている。又、職員の心のケアにも注意・目配りし防止に努めている。ご入居者の身体の観察も常時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣接する特養ホームとの合同研修を行っている。必要時には支援できる準備は出ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約、重要事項説明書、入居のしおりにて説明、同意を得ている。又、変更事項や新たな事柄には家族会や来訪時に説明し書面にて同意を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場において入居者家族代表から直接意見を頂くほか、日常の関わりの中での意見をユニット会議の場で話し合っている。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で感じたこと・気づいた事は職員同士話し合い・連絡ノート等利用し、又ユニット会議の場で話し合い業務に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課にて上司との面接実施(一部職員)、毎月の会議、人材育成研修等を実施している。また法人の昇格基準を基に、正職員・準職員に登用されている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当職員は、採用となると新人研修・3ヶ月研修・6ヶ月研修・1年研修と段階を踏んだ研修にて育成している。また経験・能力に応じた研修も組んでいる。また働きながらその都度指導をしたり、施設内外の研修も定期的に行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡協議会があり、その中で、交換研修・スタッフ研修等に参加し、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を導入し又、本人との会話を通し過去の暮らしや現在困っていること、希望等拾いニーズの把握に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの生活に望むことを十分に聴き取るようコミュニケーションを図り、ホームでの生活が理解できるよう見学の機会を設け気持ちよく来訪して頂けるよう配慮している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーと連携をとっている。本人や家族の要望を伺い又、センター方式、アセスメントを用いケアプランにつなげている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせコミュニケーションをとっている。縫い物、調理、食後の洗い物等一緒に行うなかで、教わることも多く人生の先輩として敬う気持ちを常に持ちながら接している。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力なくして本人を支えることはできない。そのためより多くの家族が出入りしてくれるよう話しやすい雰囲気をつくることに努めている。行事への参加を呼びかけ、熱心な協力を得ている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも馴染みの人が訪ねて来れるような雰囲気作りを大切にしている。又、外出、電話等自由にしていただいている。ドライブ等では希望により馴染みの場所、思い出の地めぐりを行った。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士にはその関係が保持できるよう声がけ支援し、又、自分の時間を大切にしている入居者に対しては本人の生活スタイルを尊重している。午前の健康体操や合唱、午後の余暇活動を通し円滑な交流が行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の場合も十分な情報提供ができる記録を準備している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビを見て過ごしたい、毎日趣味活動を行いたい、家事作業を手伝いたい等、本人の意思決定が出来る様全職員に周知している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者との会話の中や、ご家族からの情報を得てセンター方式アセスメントを活用し情報を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	行動の把握を行い、一人ひとりが何をどこまで出来るかを関わる都度見極め職員間で情報を共有している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向と職員の気付き、日々の生活の状況等からケアプランを作成し、ご家族から同意が得られている。本人、ご家族には随時要望を聴き取りプランに反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランや介護計画に沿った日々の状態・様子はパソコン内及びすぐに目の届くところにあり情報共有可能です。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院の支援や本人の希望や要望がある場合、買い物・散歩・気晴らしのドライブなどなるべく本人の希望が実現できる支援している。又、隣接する特養の喫茶店や理容室・売店なども希望される際は利用している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防との協力体制については隣接する特養と一体で行っている。定期的なボランティアさんの訪問により会食、音楽演奏等行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師が巡回し日々の健康を管理、相談を行い、必要時にはかかりつけ医との連絡をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、特養看護師が巡回に来ており、介護職員はご入居者の健康状態や気づきを相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者との情報交換や相談に努め、退院後の生活に支障がないように努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの看取り介護について説明し、意向を確認している。書面は個人ファイルに保管し、全員で情報共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災避難訓練、救命講習、地震避難訓練を定期的に行っている。火災、地震、水害、行方不明時の非常召集連絡網を整備している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接している特養と連携をとり、火災、地震、水害時には救援にくる体制が整っている。近隣の住民にも町内会を通してお願いしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格を尊重し言葉かけも誇りやプライバシーを損ねないよう全職員が心がけ実施している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのわかる力に合わせた説明を行い自己決定を働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせその人の思いや希望を優先しその人らしい暮らしができるよう対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	週2～3回の入浴を行い清潔を保ち、衣類が汚れた際にはその都度着替えを行い、就寝時には毎日下着を交換しその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが食べやすいように、その人に合わせ提供している。(お粥、カット、刻み、トロミ等)又、食事準備や後片付けも一緒に行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事を毎日記録し、栄養摂取量を把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行っている。一人ひとりの状態に合わせて、声掛けや介助を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を利用し、間隔の把握をし、事前のトイレ誘導を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表により排便パターンを把握し、状態により下剤調整を行っている。水分摂取の声掛けや、歩行運動を取り入れ日常生活にリズムをつけている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	入浴は2日に1回実施しているので寛いで入浴できる体制になっている。十分楽しんで頂けるよう時間を組んでいる。ご入居者個々の好みの温度を設定している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は個々が決めている。昼寝の時間も各自の意向に合せ、休息の時間を作っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は個人ファイルに綴り、情報共有し、服用に関しては複数の職員の確認にて与薬し、服用に対しての状態変化観察、記録を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かし、台所仕事や掃除を一緒に行っている。余暇活動時には、縫い物、唄、ぬりえ等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にそって戸外に出かけられるよう努めている。又、行事にドライブを組み入れ普段行かない所や馴染みの所を巡ったりした。家族との外出も送迎をする等の支援をしている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ドライブやショッピングなどに出掛ける時や、売店で買い物する時などは一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持したり使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話のやり取りは自由にできるよう支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・リビング・浴室・トイレ等)が居心地の良い場所となるよう、整理整頓し花を飾ったり、季節感を感じられるような装飾を工夫して心落ち着くように配慮している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の思いにそった場所でひとりになったりご入居者と過したり自由に過ごせる居場所を工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんでいる物や好みの物を家族や本人と相談して居室に飾ったり、手に触れることができるようにして安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの今できること等を十分に把握して、その力を安全に発揮できるよう工夫支援している。		

### 目標達成計画

事業所名:グループホーム きたぞの

作成日:平成 23年 1月 1日

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	服薬については、間違いのないよう慎重に行っていたが、誤薬事故が発生した。	誤薬事故をゼロにする。	・服薬の支援時は、マニュアルに沿った対応を徹底する。 ・毎月のGH会議時に服薬マニュアルの読み合わせを行い、服薬時の対応を確認する。	1年
2	49	希望にそった外出支援に努めているが、十分とはいえない。	入居者の希望にそった外出支援が十分にできる。	・入居者の希望を常に把握する。 ・職員の体制を整える ・業務精査。 ・散歩、併設の特養施設の催事参加等を含め週に3～4回外出ができるようにする。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。